



新年のご挨拶

小千谷さくら病院 院長 山崎 元義

昨年10月より若林先生から院長職を引き継ぎました。責務の大きさを痛感する日々が続いておりますが、診療が滞りないよう努力していきたいと考えております。職員のみなさまのご協力を今後ともお願いいたします。

「沈黙」の作家の遠藤周作は、かつて自分が大病を罹患した経験から、「心あたかな病院」運動を提唱しました。

医療に携わるひとりとして、慢性期の神経難病を中心とした医療に従事する本院の役割は、非常に大きいものと認識しております。職員の力を結集し、ご家族と共に、おだやかで、安心安全の医療を提供していきたいと願っております。

自分も含めこの仕事に入った若き日の思い、世阿弥の言う、「初心忘るべからず」、の言葉通り、緊張感をもって働いた時代の、その思いを忘れずに、日々の業務に向かって行きたいと思えます。職員の皆さまにも、与えられた環境の中で自分がなすことは、何か、と問いながら、いっそうの「現場力」を発揮し、決して楽な仕事とはいえない職務に、真摯に向き合ってほしいと思えます。

今年度の病院全体の大きな目標として2つのことをあげたいと思えます。一つは摂食嚥下機能に重点をおいた医療を行うことです。そのためにも知識を増やすと同時に、観察し研究を行いたいと考えています。二つ目はユマニチュードです。実践の医療の技術を学び現実に役立てること、あせらず、ゆっくりと進めていきたいと思えます。

私はこの小千谷の地から、日本、世界に発信する医療、看護、介護を目指したい、という大きな目標[夢]をもっています。今日がよければ、ということではなく、明日の未来につづける医療であることを忘れずに、多くの職員の方々と共により良きチーム医療を少しずつ歩んでいきたいものと思えます。



小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

新年を迎え、各病棟長からの抱負

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当病棟では、昨年接遇についての学習会を繰り返し行い、普段何気ない患者様への言葉掛けを振り返り、敬意の気持ちを持って、正しい・気持ちのこもった言葉掛けが出来るように努めてきました。また患者様との懇談会でも、照明や騒音についても意見があり、特に夜間の睡眠環境を整える重要性も学びました。そこで今年は、昨年の学びを生かし、患者様・御家族への気持ちの良い対応を心がけ、患者様の目を見て話をする・聴くを実践したいと思います。又職員間のコミュニケーションを十分とり、声を掛け合うことで安全を守り、安心して生活して頂ける環境を提供したいと思います。

一昨年からのクラブ活動の充実や楽しみながら療養生活を送って頂けるような創意工夫をし、患者様と一緒に職員も楽しみながら、そして満足感が得られる業務が出来ることを願っています。

1病棟看護長 小杉 良子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年の抱負は、昨年から力を入れている看護を継続し、さらに充実させていきたいと考えています。

リアリティオリエンテーションの活用、患者様の気持ちを受け入れ、入院生活での現状を理解できるように支援しています。以前より、自宅と病院との混乱期間が短くなったと思います。認知症の程度や患者様の性格などで、時間や人手も掛かることがあります。2病棟の職員は根気強く実施しています。

病状や嚥下障害の段階に合わせ、食べる時の姿勢、スプーンや食器、食事形体などを患者様に適した方法と支援を、医師、栄養士、リハビリ職員と検討しています。入院中、食事は楽しみの一つでもあり、最後まで食べたいを支援していきたいと思えます。

これらを軸に患者様一人ひとりに合った支援を考えられるように環境を整えていきたいと思えます。

2病棟看護長 布澤 節子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は、ご利用者の方々やご家族様そして地域の皆様より、暖かいご支援やご理解を賜り、平穩に病棟運営できたことを厚く御礼申し上げます。

平成30年元旦、60床のうち58名の方が3病棟で新年を迎えました。志はあるものの、まだまだレクリエーションなどの楽しみや、入浴や食事などゆっくりと時間をかけて援助できておらず、利用者の方には不満も多くあるかと思えます。昨年は、患者様と関わる時間を多く作れるよう研究的に業務を見直す取り組みをしました。今年は更に見直していき、病棟での療養生活に活気と癒しがバランス良く提供できるよう努めてまいります。

さくら病院になって新築した3病棟も、早や15年が経ちました。少しずつ壊れ始めた箇所も出ており、利用される皆様には大変ご迷惑をお掛けしております。しかし、スタッフ一同は心身ともに壊れたり錆びることなく、いつも新鮮な笑顔が見せられるよう頑張っていきたいと思えます。本年もよろしくお願い致します。

3病棟看護長 大谷 勉



木のスプーン作りに挑戦！！

担当患者様の「スプーンが重たい」という発言から、若林先生より「木のスプーンを作れば？」と提案をいただき、生まれて初めてスプーンを作りました！彫刻刀は小学生ぶりでしたが、少しずつそれらしい形に近づけていきました。ですが、スプーンの首の部分に細くしている時に「パキッ…」…。完全に折れてしまいました。それでもなんとか修復をして写真の様なスプーンができましたが、患者様には「観賞用でお願いします」とお渡ししました（笑）。現在は若林先生が作ったスプーンを使ってもらっています。また作る機会があればもっと上手に作れるといいなあ…（笑）。

作業療法士 中林 由華



小千谷市の介護予防事業に参加して

リハビリ課では小千谷市の介護予防事業の一環として理学・作業療法部門ごとに、一年に数回各地区で開催される集まりに出向いています。理学療法部門は介護予防を目的とした講話を行いました。高齢化により筋肉量が減少し、活動性が低下していく中で、転倒等がきっかけとなり要介護状態に陥りやすくなります。そこで予防するために重要なのは食事と運動です。食事は「肉、魚、大豆、乳製品」などタンパク質を多く摂取する事、運動は柔軟体操や筋力トレーニング、歩行訓練を意識して、日常生活に取り入れる事がポイントです。参加された方には握力を測定したり、足の筋肉の痩せ衰えを見る為に、親指と人差し指で作った輪でふくらはぎを囲み、隙間ができないか等、確認したり、前屈運動やアキレス腱伸ばし、足挙げ体操をすることで、ご自身の体の状態や運動の方法を理解していただきました。ほとんどが70歳以上のご年配の方が中心でしたが、全員で体を動かすことで、自然と言葉が増え、楽しい雰囲気の中で話を進める事ができました。なお柔軟体操の場面では私の方が身体が硬く、運動の大切さを感じました。皆さんもぜひ取り組んでみて下さい。

理学療法士 高橋 浩子



昨年、介護予防事業に初めて参加してきました。参加者は80代女性が中心でした。今回の講座内容は「脳トレ」。身体機能や認知機能のレベルは様々でしたが、「失敗を笑い飛ばす」雰囲気作りをすること、集団の中でのそれぞれの個性を引き出すこと、を意識して関わらせていただきました。参加された方同士が、今後も自発的に継続して参加したいと思うには、どんな雰囲気作りが重要だろう…これからの関わりが重要となるボランティアさんとの話し合いや情報交換がもっとできればよかったなあ…等、反省点は多々ありますが、地域の方のパワーを感じた機会でもありました。この活動がもっともっと広がり、地域に笑いが溢れるといいなあと思いました。

作業療法士 星野 菜央

第13回 院内研究発表大会

吹く風に冬の到来を感じるようになった去る11月29日に第13回院内研究発表大会が開催されました。それぞれ専門職としての視点から病院全体の質の向上につながるような以下の6題の発表となりました。



1. 患者個々に合わせた保湿剤の選び方 1 病棟介護
2. 身体拘束解除に向けた検討の充実 1 病棟看護
～ チューブ類自己抜去に焦点を当てたアセスメントシートを試用して ～
3. リアリティオリエンテーションを用いたアプローチ 2 病棟看護
～ 転倒リスクを減らすための関わり方 ～
4. 介護福祉士として達成感を得るために ～ やりがいを持てる環境とは ～ 3 病棟介護
5. 手指衛生実施率向上を目指して ～ 取り組みと評価 ～ 感染制御褥瘡対策委員
6. 手指衛生実施率向上を目指して ～ 現状と背景 ～ 感染制御褥瘡対策委員

山崎院長からは「研究はそれまでの過程が大事なんです。お疲れさまでした。」と発表者たちの労をねぎらい、次年度にもつなげる、継続してほしい研究が多かったと締めくくりました。忙しい現場で研究に取り組まれた皆さま、本当にお疲れさまでした。

3 病棟 看護師係長 五十嵐 直子

新潟看護ケア研究学会に参加して

平成29年10月14日に開催された新潟看護ケア研究学会第9回学術大会へ参加させていただきました。

演題は平成28年度の院内研究発表会で発表した「大脳皮質基底核変性症患者に顔の機能回復マッサージに取り組んで～コミュニケーション機能を維持するためのアプローチ～」と題し、ポスターセッションにて作成し発表しました。初めての学会発表

であり緊張感の中発表させていただきましたが、院内研究発表の時とはまた違った質問もあり、新たな視点で研究を考えることができ良い経験をさせていただきました。また他の病院からは興味深い研究内容が多く聞き入る内容のものばかりでした。

特別講演では貴重なお話を聴き、看護の可能性について考える機会となりました。今回の学会発表を通して大変貴重な体験をすることができました。この経験を忘れず今後活かしていきたいです。



2 病棟 看護師 中村 佳央理

編集後記

あけましておめでとうございます。新潟県は年明けから多くの雪が降り、除雪作業等にて大変な思いをされている方も多くかと思われま。インフルエンザが流行る時期でもありますので、風邪等に注意してお過ごしください。

私事ですが、ここ数年、歳と共に1年経つのが段々早くなっているように感じます。今年もあっという間に過ぎていくであろう1年を、充実した年だったと思えるように目標を立て、色々なことにチャレンジしていきたいと思います。今年もどうかよろしく願い致します。
(下村 記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地
電話(代表) 0258-83-2680
FAX 0258-83-4416
URL <http://www.sakurahp.com>
E-mail info-01@sakurahp.com
広報委員 中山 克成・原 智史・篠田 由江
下村 健・種岡 靖子・伊佐 純子